



AA日本ニュースレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916



AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス
〒171 東京都豊島区池袋 2-23-3 橋ビル 9F

TEL 03-3590-5377
FAX 03-3590-5419



No.61

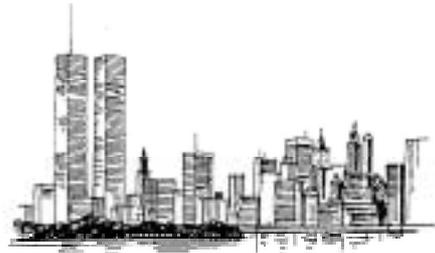
第14回ワールドサービスミーティングに参加して テーマ：愛と感謝を行動に

第14回ワールド・サービス・ミーティング(以下WSM)が、10月27日から31日までの5日間、ニューヨークで行われ、日本からは、WSM評議員、湯浅、岡崎の2名が参加しました。

次に紹介するのは、アメリカ/カナダGSOの広報デスクが、最終日の10月31日に、全米の報道機関にむけて発表したステートメントです。今回のWSMの概要を簡潔、的確に伝えています。

「世界中のアルコールクス・アノニマスを代表する42人の評議員が、第14回WSMに参加するため、ニューヨーク市のクラウンプラザ・マンハッタンに集合した。このミーティングのテーマは“愛と感謝を行動に”である。全体会議はすべて、スペイン語と英語に翻訳された。ミーティングを主催したのは合衆国/カナダの常任理事会である。常任理事会のチェアパーソン、ノン・アルコールクのジム・エステルは、ミーティングの開始を告げるにあたって、評議員たちに次のようにのべた。「われわれは世界中から集まっていますから、多様で、たがいに異なっていることは否定できないし、また否定すべきでもありません。われわれが力強いのは、まさにその多様性のゆえです。しかし、われわれがアルコールリズムという共通のきずなで結ばれており、この共通のきずなに導かれて、この生き方、このアルコールクス・アノニマスの共同体へやってきたということも、また否定できません。飲まない生活という、あなたがたの奇跡を思うとき、われわれは、愛と感謝を具体的にしめすために、まだ苦しんでいる兄弟、姉妹へメッセージを運び、飲まない喜びを分かちあうべきだと思わずにはいられません。われわれがそうするのは偶然ではなく、自分の生命とソブラエティは、それを伝えることによってのみ守られることを知っている、そこから生まれるエネルギーによるものです」

AAの共同創始者のひとりが、1969年に始めたWSMの第一の目的は、まだ苦しんでいるアルコールクに、かれらが世界のどこに住み、どんな言葉を話していようと、AAの回復のメッセージを、より確



実に伝えるためである。WSMはこの目的に向かって進むための方法、手段についての経験とアイデアを分かち合う広場の役割をはたしている。参加者の合意により、このイベントは2年に1度、ニューヨークと、世界の他の場所で交互に開かれている。前回のWSMはコロンビアのカルタヘナで行われた。

AAの推定によれば、アメリカ、カナダにくわえ、世界の140以上の国にAAが存在する。ニューヨークに集まった42人のワールド・サービス評議員が代表しているのは、AAが全国オフィスを持っている、26の国と地域である。これらの国で選挙によって選ばれた評議員だけが出席できる。今年の委員会では、文書の販売、コミュニケーション、サービス構成について討論された。ワークショップもあり、AAの回復のメッセージをいかに運ぶか、その他アルコールクス・アノニマスのサービス活動のあらゆる面が主題になった。この一週間、すべての評議員は、世界中からの経験を分かち合い、AAの責任の誓いを実現すべく、さらにいっそう献身するよう、決意を新たにした。—誰かが、どこかで助けをもとめたら、必ずそこにAAの(愛の)手があるようにしたい。それは私の責任だ。(中略)

イタリアの評議員、ジャンピエロ・Sが、基調演説で第14回WSMの目的を簡潔にまとめた。「わたしは、自分がもらったものを、自分の力のおよぶかぎりあたえようとすることで、感謝の気持ちを表そうとしてきました。まだ苦しんでいるアルコールクにAAのメッセージを運ぶことが、わたしの生活の基本となりました」

第14回WSM

《変化する時代のAA》

前期WSM評議員 湯浅

第14回WSMに後期評議員の岡崎さんといっしょに出席させていただきました。

議事は5日間にわたり、連日朝の9時から夜の9時過ぎまで、ぎっしりと組まれた日程のなかで、各国の現状報告、テーマ別の発表、ワークショップ、各種委員会の会議、全体会議が行われました。

それぞれの内容はどれも興味ぶかく、示唆に富むものばかりでした。日本でのサービス活動に実際に役立つヒントもたくさんありました。くわしくは各地でのご報告、来春出版される報告書にゆずり、ここでは岡崎さんと分担のうえ、いくつかの目新しいテーマにしぼって、簡単にご報告いたします。

いちばん目新しかったのは、なんといってもインターネットの話題、AAのメッセージ活動にインターネットをどう利用していくかというテーマです。

これはまだこれからの課題で、未知数の部分を多くふくんでいますが、世界中で話題になっているだけに、多くの参加者の興味をひきました。

フィンランドから来た、ハヌー・Sさん、オーストラリアからのトム・Kさんが、「変化する世界の中で、メッセージを運び続けるにはどうするか」という発表で、これを取りあげました。フィンランドでは、インターネット上のグループがひとつあり、メンバーには、インターネットでAAの存在を知った人たちが、多くいるということでした。後の討論でも多くの人が熱心に発言しました。

ご存じのように、ニューヨークのGSOは、昨年12月から、インターネットにホームページを出しており、この10月から2カ月で2万人にちかい人が見えています。アメリカ/カナダの常任理事会では、ウェブサイトにかんする臨時特別委員会をつくり、本格的なものを作成すべく細かい検討をはじめており、各委員会でも利用のしかたを議題にしています。日本でも常任理事会の努力により、5月からこの試みが始まっています。

WSMの会場で、挙手で調べたところ、10ヶ国ちかくがすでにウェブサイトを持っていました。予定している国もいくつかありました。しかし、まだお互いに接続はしていなくて、これからの課題として確認されました。

現在アメリカでは、インターネットの上で、AAにかんするさまざまな情報、ミーティングが提供されており、それらはアメリカ/カナダの評議会で公

認されたものではありません。しかし、常任理事は、それらに干渉するつもりはまったくないとのことでした。

サービスにかんする情報交換、経験の分かちあいを、インターネットを使って行おうという相談も始まり、少しずつ進んでいます。世界中のAAのオフィスが、コンピュータのネットワークで結ばれる日も、遠くないかもしれません。

しかし、いくら通信手段が発達しても、AAの原点は、二人のアルコールクが直接出会うところにあり、この原点を忘れてはならないことも確認されました。

次にわたしが注目したのは、AAの文書の翻訳の問題です。今年の、第一回日本全国評議会で、ビッグブック日本語版の改訂が議題になり、現在検討が進められているからです。

さきほどのハヌーさんは、フィンランドで“12のステップと12の伝統”の改訂が課題になっていることを、取りあげていました。フィンランド語の“12 & 12”は翻訳されてから40年たっています。その間にフィンランド語の話しことばをはじめとして、多くのことが大きく変わり、翻訳が、時代にそぐわないものになっています。AAに新しく来る人々が、改訂を要望しつつづけているけれども、オールドタイマーたちが、自分たちの飲まない生活をスタートさせた現行の版に愛着をもち、こだわりつつづけているので、話しあいが続いているということです。ハヌーさんの意見としては、AAに助けを求めて来る人びと、われわれが助けの手を差し伸べようとする相手の人びととわれわれが、同じことばを使うことはとても大切なことだと思おうと言っていました。

ニューヨークのメンバーが、AAの本は、できるだけやさしいことばで書いてあるほうがいい、アメリカの大統領のスピーチは、中学生が聞いても分かるように、やさしいことばしか使っていないのですよ、といっていたのも記憶に残りました。

GSOの出版ディレクター、ヴィーニー・Mさんと話していて驚いたのですが、じつは同じ問題は、現在、スペイン語、ドイツ語、フランス語など、いたるところにあるのだそうです。オールドタイマーの愛着と、新しく来た人の要望の不一致を解決する方法は、話しあいを重ねるしかない、今日一日の精神で、徹底的に話しあうしかないんじゃないか、というのが、彼女の意見でした。

5日間の分かちあいを通じて、印象が深かったことは、われわれの地域に世界が目を向けはじめているということです。世界サービス全体の流れとしては、ここしばらく旧東ヨーロッパにいちばん力が入っていたようで、アメリカ/カナダGSOの所長ジョージ・Dさん、GSOスタッフ、アメリカ/カナダの評議員が、しばしば旧東ヨーロッパを訪問していたようです。しかし今、アジア・オセアニアに注目が集まりはじめています。次回のWSM開催地の決定もその流れの中でおこなわれたようですし、ジョージ・Dさんも、これからはこの地域に力をいれていきたいので、日本の貢献をおおいに期待している、と話していました。昨年第一回のアジア・オセアニア・サービス・ミーティング(以下AOSM)が東京で開かれたことは、高く評

価されていました。

「愛と感謝を行動に」のテーマにふさわしく、5日間の会議は、終始温かい雰囲気のもとで行われました。世界から集まった評議員、会議を支えてくれたGSOスタッフは、みんなすばらしい人たちでした。AAの一員であることの幸福と感謝を感じさせてくれ、AAのプログラムをより強く信じさせてくれました。

また、いつも思うことですが、人種、ことば、文化はちがってもアルコール依存症は世界中、不思議な感じがするほど同じでした。みんな同じことを考え、同じ悩みを抱えています。サービスの面でも同じでした。

最後に、今回のWSMへ日本からの2名の出席を支えてくださった、全国のメンバーの皆様、JSOのスタッフに感謝してこの簡単な報告を終わります。

第14回WSM

《強く印象に残った三つのトピックス》

後期WSM評議員 岡崎

第14回WSMに参加させていただき、お伝えすべきことはたくさんあるが、その中から特に目立ったトピックを3点取り上げて報告したい。

ロシアでの手紙によるサービス活動

今回のWSMでは、ロシアから初めて評議員が送られ、熱烈な歓迎を受けたのが印象的であった。そのロシアの国別レポートで、興味深いサービス活動の報告があった。

ご存じのようにロシアは世界一の広大な面積を有する国であり、アルコール問題も深刻である。AAは1987年に始まり、来年1997年に10周年を迎えるところである。1996年現在、72の都市や地域に147の登録されたグループがあり、メンバー数は3,000人から3,500人といわれ急速に発展している。しかし、国の大きさもあり、いまだに個人的にAAメンバーと接触する機会のない人たちが、多くの地域でアルコール問題に苦しんでいる。

そこで、1994年の6月から、ロシアにおいて手紙によるサービス活動が始められた。今までに800の都市や町から3,000通以上の手紙が、モスクワのサービスオフィスに送られてきており、7人から10人のスタッフがすべての手紙に返事を書いている。現在、5つの地方都市がこのサービスに参加するようになっている。手紙によるサービスについてのAAの機関紙も発行され、これからAAを始めたい地域への情報の提供やローンナーたちどうしの分かち合いに役立っている。

アルコール以外の問題について

ワークショップで取り上げられたテーマの中に“アルコール以外の問題”についてというものがあった。薬物依存、摂食障害、ギャンブルなどのアディクション問題の広がりには日本でも近年話題となっているが、世界の多くの国でも同様の状況であり、現在AAが直面している重要な課題の一つと言える。

今回は、この問題についての古典とも言える、ビル・Wによって書かれたパンフレットである“アルコール以外の問題”の中で論じられている「12ステップの学びと実践を通してのソプラエティールアルコールからの解放—がAAグループの唯一の目的である」という原理が再確認された(このパンフレットの現在の日本のAAへの重要性和必要性が今回認識されたので、できるだけ早い時期にその翻訳が行われる予定である)。そして、「新しい仲間にもわれわれの目的を正しく伝えているか」、「薬物依存の経験のあるAAメンバーが暖かく迎えられているか」ということが問いかけられ、各国のAAでの経験が分かち合われた。

アルコールに問題があり、やめたいという願望のある人は他にどのような問題があってもAAメンバーとして受け入れられるという原則は、ビルがパンフレットを書いた当時(1958年)にはまだ十分浸透しておらず、薬物依存の経験のある人たちがAAメンバーになれるのかが問題とされていた。薬物依存をはじめとしたさまざまなアディクションの広がりと同時に、それは現在の日本でもときどき起きることであると思うが、その一方でそれらの問題を持つ人たちの12ステップグループも成長を続けている。AAは、

アルコールの問題がなく、アルコール以外の問題を持つ人々をメンバーとして受け入れることができないが、そうしたグループを作るための手助けや、必要な人にそうしたグループの存在を教えることはできる。

ワークショップの中では、この原則を新しくAAにきた人に正しく伝えるときのスポンサーシップの大切さ、また地域に他の12ステップグループのない場合に、さまざまな問題を持つ人々にAAの出席を勧める専門家に対して、このAAの目的をはっきりと伝える必要性が分かち合われた。

次回のWSMのテーマは「サービス一個人の回復とAAの一体性の基礎」

今回わたしは、議事委員会と次期開催地決定委員会に出席し、1998年の次期WSMのニュージーランドでの開催(来年1997年のAOSMもニュージーランドで開催される)の決定にも携わることができた。

議事委員会では、次回のWSMのテーマを上記のとおり決定した。口頭発表(プレゼンテーション)と話し合い(ディスカッション)のトピックは以下の通りである。

- 1. スポンサーシップの役割
 - a. 回復にとって b. 一体性にとって c. サービスにとって
- 2. サービス活動の重要性
 - a. グループで b. 地域で c. 評議会と常任理事会

で

3. 輪番制の原理

- a. グループで b. 地域で c. 評議会と常任理事会で

4. 日常生活への伝統の適用

- a. AAのなかで b. 職場で c. 家族のなかで

5. AAフェロウシップの外部と協力しながらAAのメッセージを運び続ける

- a. 全ての分野の専門家と b. 事業主や組合と c. メディアとワークショップのトピックは、毎回持たれる“各国間のコミュニケーション”“自由テーマ”以外に“伝統の枠内で新しいメディアを利用するには”“委員会システムの重要性”の二つを取り上げることが決定された。

上記の各テーマは、今年全国のサービス体系の枠組みが定められ、さらなる充実と成長を図ろうとしている我々日本のAAにとって、時期にかなって大切なものが並んでいる。次回のWSMに向けて、予定されているテーマやトピックについて、いろいろなメンバーやグループの経験を聞かせていただき、分かち合っていきたい。

(追伸) 2回のWSMに参加させていただき、来年の各地での報告を持ってわたしの4年の任期が終わります。皆様からの支援と励まし、ハイヤーパワーのお守りを感謝します。

☆商標登録完了のお知らせ☆



ALCOHOLICS ANONYMOUS
アルコールクス アノニマス

かねてから出願中のAA、アルコールクスアノニマスの英語およびカタカナ表記の商標が、第42類の“アルコール依存症者ならびに家族等関係者に対するアルコールリズムからの回復のための助言・促進・振興活動”の分野で、1996年9月30日づけで登録されました。なお、第16類の印刷物文房具添付分の商標登録はすでに95年に完了しています。

☆新刊案内☆

「信じるようになった」

AAメンバーたちの魂に訪れたさまざまな回復への体験

252ページ 1996年11月15日発行

2,000円(〒310円)



“霊的目覚め”とは? “自分で理解している神とは?” AAのプログラムの霊的な側面が回復に何をもたらしたのか? 76名の世界の仲間たちがそれぞれ自分のことばで体験を綴っています。今の日本のAAにとってあまりなじみのない分野の本かもしれませんが、非常に心にしみいる本です。各メンバーの魂の旅路に触れてみてください。真っ赤な表紙が印象的です。